

## 会議記録

名 称	令和3年度 第1回 男女共同参画審議会
日 時	令和3年6月23日(水) 14時00分～15時20分
場 所	鹿沼市民文化センター 大会議室
出席者	塩入佳子委員、小堀哲生委員、山菅昭八委員、鈴木康子委員、大貫ヤイ委員、江俣静枝委員、森山泉恵委員、斎藤陽子委員、鈴木改子委員、荒井訓子委員、柴田友子委員、阿部秀実委員、佐藤誠委員、福田義一委員(14名) 事務局:袖山部長、日向野人権推進課長、男女共同参画係 阿部、人権推進係 臼井
内容及び 結果等	<p>1. 開会 日向野課長(進行 日向野課長)</p> <p>・委員自己紹介・職員自己紹介</p> <p>2. 会長及び副会長の互選 会長 塩入委員、副会長 山菅委員に決定。</p> <p>3. 会長あいさつ 塩入会長</p> <p>4. 市長あいさつ 佐藤市長</p> <p>5. 諮問 市長から塩入委員へ諮問書を渡した。</p> <p>6. 議事 (議長 塩入会長)</p> <p>(1) 「かぬま男女共同参画プラン2017」令和2年度実績について…資料1 阿部説明 阿部委員：ひとり親家庭等への支援について、NO84 受給資格対象者数 1,056 人に対して助成件数 8,925 件と件数が多かったがその内容を詳しく聞かせてほしい。 阿部：この実績の数字しか確認していないので、確認して後日報告する。 荒井委員：P8 の NO15 父親講座の開催、実施なしとあるが、指標を設けたのに実施していなかった理由は？ 阿部：理由は把握していないため、確認して後日回答する。子育て親育ち講座、スマイルクラブは 134 名のうち父親 9 名参加との実績はある。</p> <p>(2) 男女共同参画社会に関する意識調査結果について…資料2 阿部説明 佐藤委員：報告書の P15 の H27 のときから進んでいるのか見たが、家庭生活でも職場でも前よりは男性優位は減っているのでは、1 歩か 2 歩は進んでいると思うので進めてもらいたいという意見が一つと、資料 2 の P2 問 10-1 をみると前回でも今回の調査でも 90%以上が必要だと言っている以上一番ここを変えることが男女共同参画が実現するための答えではないか。前回も 9 割以上であり、学童保育の充実を行政にやってもらいたい。男女共同参画社会基本法に基づいて市で条例を作ってやっていると思うが、男と女と言っている時点でどうか。SDGs に関連して作るならジェンダーフリーと言っているのでは、鹿沼市もジェンダー平等プランと考えるのも一つではないかという意見である。 塩入会長：貴重な意見をいただいた。</p>

	<p>(2) 次期「かぬま男女共同参画プラン 2022」の策定について資料 3-1.</p> <p>資料 3-2 資料 3-3 阿部説明</p> <p>佐藤委員：この計画を策定しているところだが、鹿沼市の総合計画との関連は今どのように作業を進めているか。</p> <p>日向野課長：総合計画の策定については来年度からの立案策定シートやさまざまな実務の方でこちらの参画のプランと合わせて検討しているところ。</p> <p>塩入会長：この 2022 については、まだ骨子なのでどんどん意見をいただいて作り上げていきたい。</p> <p>阿部委員：今度の計画 5 年なので、中三の子は 20 歳になるくらいの期間、これが 2 回続けば、小学校 5 年以上の子供が成人になるくらいの歳になっていくので、学校教育の中でも、男女共同参画に対してのこの審議会で作ったプランにも学校教育の中での盛り込み方を入れていった方がいいと思った。</p> <p>この男女共同参画の社会の中のしくみは古い考えでは、性別分業の発想から脱却していくことが必要。雇用問題など時間がかかるし、管理職になっている男性は、女性の問題というような考え方の発想になってしまうが、少子高齢化の時代を考えると日本社会のこれからの未来をめぐる重要な問題ということでは、男性だけが支えられる社会ではなくなるので、この男女共同参画のプラン作りが重要となる。子供たちから全体の年齢の中でより具体的に啓発できるようなプランを作ってもらいたい。先ほどの意見の中で、お母さんたちの保育や生活環境の中で支援をしてほしいという 90%を超える声があったのでこの審議会から市に対しても強く訴えていくべき内容、市民の声が確かにあったということプランの中でもしっかりとうたってほしい。</p> <p>11 月に向けて、パブリックコメントを準備するとのことだがどのように公募するのか、どんな形で反映されるのか計画を教えてください。</p> <p>日向野課長：パブリックコメントの方法は、各コミセンへ計画のものを配布し 1 か月の期限の中でみていただくことと、HP の中で意見をいただく。情報公開室の方にも設置する。</p> <p>阿部委員：パブリックコメントは市の HP の行政の中の右上の方にあるがなかなか気づかなかつたりすでに終わってしまったりもするので、このパブリックコメント募集をしていることを広く市民に知らせる方法をとってもらいたい。</p> <p>塩入会長：ボタンが上にあることを知らなかった。パブリックコメントをやろうと思っても意外と厄介でくじけてしまう。もう少し簡単に意見が出せるような書式なり方法がないのか。みなさんは簡単にできるのか。</p> <p>阿部委員：慣れていけば簡単だが、慣れていなければ目安箱のようなものを課に置いてもらい投函できればいいのでは。</p> <p>塩入会長：書式は難しくないか。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>阿部委員：住所や名前など明らかにしないと扱ってもらえない。</p>
	<p>塩入会長：パブリックコメント出された方いるか。いないようだ。  先ほど学校教育の中でも取り上げてと話があったが、学校での男女共同参画は進んでいる。名簿も男が先で女が後だったが一緒になった。学校の中では平等になっている。自由に発言できたりしているし、大事で今後続けてほしいが、社会に出てからが問題。  選択的夫婦別姓の問題で、亀井静香元議員がそんなの女のわがままだとコメントしていた。そのとらえ方は社会一般にあって定着していて疑問に思わないのが問題。学校ではきちんと教育して社会に出ても周りの方がそのような色眼鏡で物事を判断しているといつの間にか染まってしまう部分もあるので、意識を変えるのは難しいが、意識調査をして制度的に変えるのが大事なので見極めたい。森山先生どうか。</p>
	<p>森山委員：池ノ森小は校長、教頭女性であり宿泊学習の引率も女性の指導員というように女性優位。意識調査報告の P14.15 学校教育の場での男女の地位の平等化に関しては他の項目と数値の傾向が違う。そういった部分では私たちが見えていないものが社会の中の課題になっているのかなと思うが、小学校 5 年生など今後 5 年 10 年で社会に出ていく子たちにどのように課題として提供して子供たちに考える場として提供していったらいいか、小中学校で培った平等感が社会のどういったところで変わってきてしまうのか、これを答えている人たちが 5 年後 10 年後どのように変わっていくのか知りたい。</p>
	<p>塩入会長：まさしくそう思う。鈴木改子委員は人権擁護の方でいろんな相談を受けると思うが男女共同参画に関する問題やご意見は出ているか。</p>
	<p>鈴木改子委員：鹿沼の相談でも職場の中で女性ということで上司から嫌がらせのようなことをされるといふ相談受けたことがある。</p>
	<p>塩入会長：社会の中でいろんな場所で聞いてみると「へ～」と思うようなことがたくさん起こっていて、自分がそこにいないとあまり見えないと思うがそういったことを掘り起こしてこれから審議会では取り上げていきたい。若い方で荒井委員どうか。</p>

荒井委員：教育の現場でということで、市から委託を受けて赤ちゃん交流体験事業というのを小中学校へ伺い、少子化対策の一環として行っているが、昨年度はコロナで実際に赤ちゃんは行けなかったが 5 年前からお母さんと赤ちゃんが行き、グループワークで子育てや出産の話や実際に赤ちゃんを抱っこして、子育てとはこういうものだという授業をしている。昨年はお人形で育児体験、妊婦体験をし、清洲小で行った。育児は男性でもできる。子供を育てることは男性でも関われるというのを小中学生でもわかってもらえる。このような体験をするとわが子が生まれたときに実践できますねという先生の話聞き、実践の場がないまま結婚して子供が生まれると奥さんが育児して仕事を辞めて奥さんに任せるといって変わってしまう。教育現場では男女平等になっている。家庭科も男女一緒に裁縫や料理もするが、育児の面で経験がないため、産んだんだから育てると意識が変わってしまう。職場でも妊娠して出産したら仕事も今まで通りできないから辞めるとか時間を少なくするというように、自分が知らないがために認識が変わってきくと資料を見て感じた。

体験する場を小さいうちから増やしていく。子供を育てる、子供の生態を小さいうちから身近に感じてもらえれば、男性であっても積極的に育児に関わるという自信がついて子供が欲しいというように持っていけると思うので、今後体験活動を充実させることが必要だと感じた。もし何か盛込んでいただければいいと思う。ぜひ何か盛り込んでいただければいいと思う。

塩入会長：確かに女性が経験していて男性にわかっていただけないところもあるし男性の立場を女性がわからないこともあり、一方的に女性が被害者というわけではなくお互いを理解することが大事だが、子育てについてはそのようなところが大きい。柴田委員どうか。

柴田委員：昨年孫が生まれ、会社もリモートワークになり一緒に子育て参加できている。先ほど佐藤議員も言っていたが、鹿沼でも託児所や育児しやすい施設をたくさん作って、若い人たちが住める家と充実した教育があれば、リモートワークも進んでいるので都心からも子供を育てるために若い人が増えるのではないと思う。セミナー運営委員をやっているが、セミナーでは高齢の女性が多く、古くからの意識を持っている方が多いが、セミナーで新しい情報を知って、家に帰って息子や旦那さんや祖父母にも昔の常識が今の常識ではないということをお話していただくと少しでも大勢の意識が変わっていいという思いで、セミナーでも工夫をしながら考えてやっている。

	<p>塩入会長：鹿沼でも生涯学習の取り組みは長い。人生の終わりまで学習は続く。学習しないと置いて行かれる。そのような生涯学習の部分ともリンクさせていくといいのではと思う。</p> <p>老人クラブから参加の鈴木委員、老人クラブでの啓発はどうか。</p>
	<p>鈴木康子委員：ここには若い方が多いが、老人クラブは昔の「女は台所、男は仕事」という世代だ。でも鹿沼は自分（女性）が連合会長になったという事でかなり進んでいる。本当はやるつもりはなかったが、女性が「できません、できません」と言うばかりでは進歩が無いので受ける事にした。先日老人クラブのある部会で、スポーツ大会での検温について意見を言ったら「女のくせに」と言われた。他地区でもやはり「女のくせに」と言われるそうだ。</p> <p>一人一人の改革が必要だし、女性だからと引っ込むのではなく、しっかりした意見を持ち、前向きに考えていかないと進歩が無い。これからも頑張りたい。</p>
	<p>塩入会長：女性の良い所はしなやかに色々な意見を取り入れられることが多い。年を取ると頑固になるから、意識して、どんな意見もいったんは受け入れるというトレーニングをするのが良いと思う。</p> <p>形式的な会議では、皆さんの意見が生きないので、時間の許す限り皆さんの意見を聞きまとめるつもりだ。次回も、前向きなご意見をお願いします。</p> <p>沢山意見を頂き、市長にも是非聞いていただきたい。</p> <p>佐藤委員、最後に意見があるか？</p>
	<p>佐藤委員：個人的な感想だが皆さまに聞きたい事がある。「婦人防火クラブ」だが、その名称自体が、男は現場で、女は家庭と言うのを表しているように感じる。一方で「女性消防団」が出来て、さらに混乱している。「消防団」として女性加入が増えたという事ではだめか。わざわざ「女性消防団」と言っている所にジェンダーをことさら強調しているように感じる。</p>
	<p>塩入会長：確かにその通りだが、どうしても女性の進出が遅れている場面では「女性初の〇〇」と表現される。徐々に数が増えて、当たり前になれば必要なくなるので、女性が進出したいと手を挙げたら、是非男性にも応援していただきたい。時間が残り少なくなったので、県の小堀委員には次回、県の動向などを含めてご意見を頂きたい。</p> <p>では、市長より諮問を受けた「かぬま男女共同参画プラン22022」については、会議内の考え方やスケジュールにより、本日の皆さまのご意見を参考に事務局で進めていくという事でよいか。</p>
	<p>一同：異議なし</p>
	<p>(4)その他についての意見は無し。</p>
	<p>日向野課長：貴重なご意見を頂いたので、プランに反映できる様、策定を進める。</p>

	<p>7 その他 阿部：事務局からのお知らせ 次回の審議会は11月を予定。委員の任期が9月30日の為、10月に改選を行う。8月に団体の代表宛に推薦書を送付する。今年度はプラン策定中という事もあり、是非現委員には引き続きお願いしたい。</p> <p>また、6月23～29日は「男女共同参画週間」であり、本庁舎にて関連の展示を開催している。図書館でも関連本の展示を行っているのでご覧いただきたい。</p>		
	8. 閉会 日向野課長		
配付資料	<p>当日配付・次第・かぬま男女共同参画プラン2017・男女共同参画社会に関する意識調査報告書</p> <p>事前配付・「かぬま男女共同参画プラン2017」令和2年度実績について資料1</p> <p>・男女共同参画社会に関する意識調査結果について資料2</p> <p>・次期「かぬま男女共同参画プラン2022」の策定について資料3-1.2.3.</p>		
次回予定	11月		
記録者	阿部		
鹿沼市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条に基づく審議会等の公開状況			
(該当する審議会等以外の会議・打合せ等については記入不要)			
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	(公開の場合) 傍聴人数 0人